新編水滸畫傳

六編

五

へ21
875
55

特
門遠へ
875
55

神書佛書醫書國學
繪本 草本 新古實貨
手遊いろく 浮世絵 間
御注文 承ります
伊勢屋孫兵衛
河内屋孫兵衛

新編水滸畫傳卷之五拾五

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十年十月十日 購求

○時遷火を放て翠雲樓を燒

扨も宋公明は呉用の一言を深く感謝し。さるにても軍師いかゞ計をひらく。小旁城を攻ぬんやと問るに。呉用答て云。宋江乃嗜に人を驅て。小旁城の消息を伺せるに。梁中書我軍の再び來らんとを怒れ。已に統旁を折きること。旁の蔡太師も。関係が強りしを怒り。あゞ是を怒れ。呉某〻が罪を赦免せんと高張して。盧俊義の秀を。もあゞ殺さゞるとこそ兼ねて仕れ。幸ひ元宵の節も近るれば。小旁の年例にて。〻〻燈を放て花燈を掛るの故事あり。宋江使徒を遣し。敬じめ云を城中にへれて理伝さを。城外に。又大軍を引て推参。禮

急外合の計をなして。甚痛く攻んふ。伊ごろ城を落さるんや。宋江
此紙を見て大に怒び。元祐妙こと用しる。呉用又いろく城中に
火を放て。お呂の嫁火をよんを。是第一の肝要なるに。張豪傑の肉
附ら先城中ふ入て。此一大事を仕ひいたんや。時ふ遥来度うり鼓上
晨時迄ると云るハ。糸昔日ふ糸ふ張て数月逗留しる方。城
中の案内畧られを暁しぬ城の正面ようわに尚て翠雲楼として。
大ようり有名の高楼あり。正月十五日上元の夜ろ。城中宴て喧雨ろ
んざれば。糸暗に翠雲楼ふ上て火を放ちゃさん。軍師を先ん云として。
牢獄を劫ひ出。呉用られを見て大怒し。此已にかくのごとくんハ。明日
先山を下て彼地ふ赴き。元宵の夜の一更時分楼上ふ火を放て。嫁火
を挙ぶし。必急て迯つとおられ。時迯妻細紙羅し。翌日張紙ふ別

れて。先山をあり。呉用又解珍解宝を猟人の形ふ出立せ。孫兎
壮味の形を。小糸城中の猟夫人の形に扮せしめ。正月十五日の夜火
の手挙るを見て。糸ろく。車仗巻る方軍ホを探しむ。又杜迂宋万を
糶糸商人の形ふ出立せ。二梅の車を推せて城中に入しめ。門く火の
手挙るを見て。先城の東門を奪しむ。又孔明孔亮を乞食
の形に出立せ。小糸城中の人家の簷下に徘徊せしめ。門く火の手
挙る紙を見て。救急を呼さしむ。又李応史文恭を旅人の形ふ出
立せ。城の東門の外に旅宿を求めしめ。門く火の手挙るを見て。先
城門を守る軍士を殺さしむ。又魯智深武松を仕御の僧の形ふ出
立せ。城外の廣中に休ましめ。門く火の手挙るを見て。城の南
門ふ来ん欲を探しむ。又鄧飛鄧龍を蜆籠賣商人の形ふ出立

せて。小亦城中ホ旅館ヲ求めしめ。同く火の子拳と名づけ。牢獄の辺ニて働しむ。又劉唐。楊雄と下皮の形ホ出立せ。ホ亦城の皮府の前ニ庵借しめ。同く火の子拳と名づけ。牢獄の下皮と名づけ。

しむ。又公孫勝と乃士の形ニ出立せ。凌振と道士の形ニ出立せ。時ホ炮を持しめて城内の静なる地ホ招へこせ。同く火の子拳と名づけ。炮を放さしむ。又張順。燕青と水門より城中ニ入しめ。盧員外が家ホ潜ませ。彼淫婦。奸夫を捉へしむ。王矮虎。孫新。張青。扈三娘。顧大嫂。孫二娘ホと郷下より来りし夫婦の老女が形ニ出立せて。盧員外が家ニ火を放しむ。又宋江を樂和と軍友の形ホ出立せ蔡福。呂方を救しむ。已ニ多分尽く調りしを。法既皆山を下。各次第ホ因て兵を発し拠小亦の梁中書ハ。李成。呼遊三。太守ホと招て儀しるい花燈を張り

元宵を賞し民と潜ニ樂を同じうするハ古より小亦の年例なるニ。今梁山泊の盗賊ホと仇を結びしるを。毎年のごく花燈を張さしめ。忍び綢を惹出ひ。ことめしん。此ホ我今年ハ花燈を停止すべきと思ふ。梁山泊各不好めしバ速ホ中すべし。時ホ呼遊三云亦つ〳〵思ふニ。梁山泊の賊徒ホ。向ホ故なくして烟弥しるハ。いうさ山弥ニ吳車出来ると。

るり。縱ひ火燈を恐さしめ。何の禍ひ。今年花燈を張さずんバ。郎て賊徒ホ笑るべし。宜しく小亦中ニ觸を出し。往年より多く花燈を張しめ。相公自ら見を遊賞しなば。民と共ニ樂む。乃福を行るの為ニ。亦一廛の人を引て賊ホ赴む。飛虎峪ホ弥を強て賊を防ぐべし。李成ホも亦同しく。一廛の軍を与へて。城の北方を巡見せしべし。強ハ賊来るとも忍び出て相公

新編水滸畫傳卷之五十五
時遷
火を放て
翠雲樓を
燒

新編水滸畫傳卷之五十五

自ら是を案じ文。梁中書氏云を曰て可と曰ひ。拔て文書を出て
中に出。今年は例よりも多く花燈を設け。宴飲共に樂べきよう
を觸ふ。扨梁山泊より出る消息を聞くに。呉學究宋江が
對して云。氏ひ宋君小智て小糸に向へべしとて。急ぎ八路の軍を
を催しぬ。第一隊の大将は雙鞭將呼延灼と韓滸彭玘を引て茅郡
を出し。第二隊の大将は。豹子頭林冲と。青麟鄧龍を引て茅郡を
出し。第三隊の大将は大刀関勝と。宣賛郝思文を引て茅郡を出し。
茅軍は。病尉遲孫立と後隊に出し。救應として。第四隊の大将は霹
靂火秦明と。驍將呂方と。飛鵬燕順と茅郡を出し。また雨獸楊志と後隊に出し。
救應とし。第五隊の大将は步軍頭領解珍と。解寶と。渡遮探穆弘と。杜興。鄭天壽と引

て出る。第六隊の大将は馬旋風李逵と李立曹正。
と引て出る。第七隊の大将は步軍頭領挿翅虎雷横と旅恩
穆春と引て出る。第八隊の大将は步軍の頭領混世魔王樊
瑞と。項充李袞ホと引て出る。已に調ひし。正月十五日の二
更の時分。茅軍は小糸の城下ホ。ホと約を定め。八路の人馬
は日を分て出る。手始の頭領は扨て宋江ホ。呂方と山路を
出て。扨時迂は簪を花壇に走るとの道人に入るが。手後より城ホ
入へ。万一着尤めホ遭ることやうんぞ。はいて。夜中墻を越て城中に乱
入。彼此ふて旅館を求められども。單身旅人に宿を借ることを留め
ざるに。是は街に徘徊して夜を東岳嶽廟の内ホ歌へ。正月十三日の朝
独宋に街を遊行して出下を見る。子門家戸毎に花燈棚を設け。

紙じめ上元の夜の用意とて僧〻る。〻る紙に解珍解宝ハ廉兎
ホの肥味を為て城中と往来に。又杜迁宋万あ人も同しく武辺と
徘徊に。〻ホ又孔明を乞食の形に身と窶〻るホ一ツの碗を提
武処に来りるが。时迁と見て暗に何と怠〻るハ。时迁がいまく見下
原来上ホの人物なるにより為て乞食拵にめ〻びり下皮らに
又九ることめ〻ハ中しき大事を〻んホく武辺と避行ものと。いまざ
云も早〻ざるに。今夜孔亮も同し〻く乞食ま假て武辺ホ為る。劉唐。楊
雄ハ武三人のみと見て迷に驅来る跡三人何ぞ武処に徘徊するや。
下皮らホ捉れなば。宋江の大事を為るべきぞ。先我ホあ人ホ跡
て来れとて。又人同く寺の前ホ為り〻処ホ。まさ公孫勝。凌振あ人ホ
往遇。七人暗ホ高俅と定め。各に方ホ分れり。上元の夜も不近り

ぬ。梁中書已に少遊に会と与へて城外虎峪の辺に張元しめ。
又李成ホ誘るの軍士又百人と与へて。城の四方と巡り〻む。已に正月十
又日に至り〻ハ。ホ京城中の民屋異に寺院及くの花燈と設て。各
若是し美趣せり。武夜前級蔡福ハ今夜蔡慶ホ牢獄と守せて。
先彩宅ホ飯りし処に禁を已に樂和と引て門内ホ入りれば。蔡福態
勢ホ迎て答意〻ぬ。时ホ禁を乞。我等今宵の役機ホ乗〻て。盧
員外。太秀と訪んと欲に別く〻前級牢中に牽せ。蔡福これと聞
て〻ホ来ると驚〻て暗ホ躊躇〻て。武人ホ為と准へまんば。
後必ず寛と結べさ。あらば〻ホく奪んろ〻ハ。遂ホ禁を〻ホ為人と
引て牢中ホ到りるホ。时ホ〻と神文の附分〻。扨彼王英一丈まと孫新。
顧大嫂張青。孫二娘ホハ。以下の者に出立て城の東辺に驅入ぬ。公

孫新凌振ハ城隍廟の辺に徘徊して鄒淵鄒潤ハ花炮を挑て城中に奔走し。杜遷宋万ハ各一輛の車を推て梁中書の門前に往来し。劉唐楊雄ハ各水火棒を持て。州橋の両辺に盤桓ふ。燕青張順ハ城の水門より城内に入て。静なる処に埋伏を。時已に二更前後になりしかバ。時遷ハ籃の内に硫黄焔硝の火薬を入れ。晴に翠雲楼に上て楼閣の内を見るに。笛を吹鼓を撃て若干の遊客坐に充満し時遷ハ中にて約束の時剋已に至りしかバ。城外を見定て梁山泊の人馬ぞや推寄らんに。急ぎ事を行ふべしと思ひし処に楼前の旅人一度に騒動し梁山泊の軍馬推寄せ陣を破りしぞと叫り。敗軍を招て城内に引退く。李成ハ城中にて此消息を聞き慌忙さ。急ぎ促し城門を閉しむ王太守ハ手勢百餘人を引梁

中書が鈞に馳来る。梁中書ハ此消息を聞て大に驚き馬の用意と慌壮き処に時遷遂に翠雲楼に火を放ちしが。忽ち煙炎と焚上て。頭し焔天に衝突火光月の明を奪ふ。梁中書弥肝を消し急ぎ馬に乗て火を救んと跑出したる折に両人の大漢子各車を推て馳来り。都て車の内に火を放ちけれバ。京中多く火薬を設けたるにや。間さ猛火起て黒烟人を迷わしむ。梁中書益作天し。城の東門に出んとせし処に。彼両人の大漢子大音声に呼て云我が家ハ梁山泊の豪傑李應史進也。両軍中一人も徒さずとて。刀を揮て狙ひし処に。城門を守る軍士ら大に騒動し。悉く皆先を争ひ逃走る。敗れたる軍士併て十餘人詰まり。杜遷宋万もはしく刀を揮て馳来り。李應史進と共に只一処に立て城の東門を揮りければ。梁中書是を見て。

と叱し魂を散し雲に南門を破んで走りぬ。こに又一人の大和尚禄杖を横し。一人の沙弥あり刀を使ひ。喊さ叫んで斬回る。梁中書大小恐れ再びるを回し鼓笛小動りる

○呉用智を仕て大名府を乱

くる紛に解珍解宝各軍器を奪て。四八方小逃さしを。梁中書又州衙の辺小馳行り。扨王太守ハ刘唐楊雄に適遇て闘るが遂に両所に殺される。其後の軍士〻ハ各〻方小奔走に。梁中書又西門の方小逃行し紛に城隍廟の内ム大石炮を放て天地も崩くだりの毒めり。鄒淵鄒潤おの〻〻火器を持て所〻に火を焚し〻び。忽ち煙を飛せて焚焼る。王綾虎。一丈青孫新。顧大嫂ハ人ハ一所に生てお働く。張青孫二娘ハ相仏寺の長老を

て火を放ちるに。扨京城の百姓共哭叫んで奔走に。此時に方の火勢大小盛り。扨梁中書ハ西門の辺にて李成が軍に小適遇勢と一所小合せて。南門の城楼小上り。遥城下を見るに。大軍群て旗號の上に呼延灼と云三字を分明小書付。中に呼延灼あり。左ハ韓滔あり。右ハ彭玘あり。後ハ黄信あり。皆〻三軍を率く攻来る。梁中書城外に出ると雖ども。又東の方小馳るに。没遮探穆弘等に杜奥。鄭天壽左右に扶侍ひ。尚先に立て一子作人を引率し城中に斬て入。梁中書又南の方小馳て。吊橋の辺に到る紛に。火把の光り白昼のごとくして。黒旋風李逵等に李立曹正各軍器を拋て。城外ゆ攻来る。李成尚先小跑て一の鉄を殺矢さ。梁中書を護て此ハ逃行紛小。左の方に喊の声大小起て若干の火把を揮照し。大刀冥搗

赤面に髯長き竜刀を舞し。忽ちに梁中書に折て奪る。李成多ふあるを揮てお迎へ戦ひまゝ救命に奔ゝ。宣賛。郝思文左右より斬て出。孫立は後に立て云々をめ一度に鼓を鳴し攻来る。欽親方約束とれ乳れて戦ひまさに半ば紛れ。小李廣花榮弓を拭り。箭を搭へ絃引て云と放ちれば。李成が副将箭に中て馬より下にまつさしまふ落ふり。李成これを見て大に驚き馬を回して走り紛ふ。右の方ふ又喊のり。忽ち起り。霹靂火秦明馬を躍せ槍を舞し。燕順。欧鵬を引て突出る。楊志も同じく後ろをしゝ。李成見ふ旅く大ふ潰乳し。云ま討れて這く梁中書を棄て逃去る。扨又杜迁宋万は梁中書が鈹に乳れ入て一族の男女一人も遺さず斬殺し。孔明。孔亮は獄屋の後より墻を越て跳入る。太守が券族を斬殺し。

郭淵。郭淳を獄屋の柱に立て往来の皮軍を斬拂ふ。獄屋の内うち禁を樂和おの大巳に起りしるを見て蔡福蔡慶ふ人ふ對して云是下見丈騒動を見ひめるや。ふゝ牢門を開て盧俊義ふ秀人人を救ひ出し。人を救ひ出し。人といまさ云も後ゝ。郭淵。郭淳刀を揮て斬て入梁山泊の豪傑約て此処ふ在ふく盧員外ふ秀人人を出して陰系せよと呼しなば蔡福兄弟これを聞て大きに驚き孔明孔亮は已に塀を越て牢門の前に跳下り。扨て牢を打破り盧員外ふ秀を救ひ出し。狂に方に向て歩回る。梁を為ざ蔡福蔡慶を引て云。是下人人速に春屋を常して我等ふ陰系し。共梁山泊ふ上り。蔡福兄弟これを聞て系より屋を取りしなば速春屋を引て梁を見ふ出ふ。此時盧俊義ハ。石秀。孔明孔亮。郭淵。郭淳ふ人人を引て賈氏李応人人を拵へ。

走れに私宅へと跑行る扨被淫婦賈氏奸夫李吉い梁山伯の豪傑人
るを引き城中ふ攻入りしと呼ばれ急に家を出て逃行んとせしを。
若干の人喊き叫んで家内にお入れば李吉これを見て大ふ狼れ賈氏と
ともに家を囲して後門の方の水辺ふ蘆葦の内に身を躲さんとし
らりるに張順器の上に立て大喜ぶに呼ばり淫婦奸夫淫婦に向ふ
走んとまるや。遂に捕を来ぬて索を掛れと罵りれば李吉忽然として
魂魄倖ふつぶ。孤杜に船の上に抱ひり獄の内に隠んとせしふ一人
の漢子ふく現れ出て李吉を撃て大ふ罵り云奸賊汝我を識るや。
李吉氏漢子が喜ぶを呼て浪子燕青なりしぶ刑着て云燕青淫婦と
我を捕へ。汝もちく寛もるこれ。何故ぞ我を
燕青益怒て強ふ郷めるれば張順は
もや淫婦賈氏を捉て船の辺ふ

拖ん来り。李吉と共ふ城の東門を連行り。扨盧俊義を又人の
豪傑ふ引て家内に帰り彼此捜しれども李吉と賈氏とは見えざりぬ。
まりて先家財を收拾ふて金銀珠玉を擇て車に載遂ふ
呉用に会せり。策も又蔡福蔡慶を引て同じく呉学究に遇る
に天色ものや明ふり。氏とき呉用三軍ふ收く百姓を犯すこなかれと。
厳に号令を伝へしぶ。百姓ども手を見て感悦に燕青張順は奸走淫
婦を引来りるふ。盧俊義これを責て大ふ怒び我自ら手を下ホ罪を行
人宮〳〵を見ともり込て。燕青張順に託ける。扨梁中書ハ李成ふ
後て滅亡ふ逃出し処ふ又呼延に適遇刑故軍を收めて勢を一所ふ
合せ俱ふ南を目で落行。後来里で張順に出面に喊の為大ふ
話り。混世魔王樊瑞項充李袞ハ人を従へて各飛刀を奉し飛槍

を揮て攻る。背後より又挿翅虎雷横、施恩、穆春を引て二手の歩軍を率し。喊を揚鼓を擂て梁中書が軍を探へり。此時殆危く見えたれども。李成等達死戰をなして。第後小めうり竟小圍を突拔て大路を脫れ。苦に梁中書を護てこれより又路を換て各西を除でぞ行り。樊瑞項充李袞は。雷横、施恩、穆春ホと共に後小殿て追蒐欲を防多付元カリ

○宋江馬歩三軍を賞し

呉学究い城中に至て江方の猛火を消さしめ。大名府の庫を開き金張米殘を奪元。別是を分つて城中の百姓小施し。其外車小載て梁山泊へ運せり。張の豪傑已に人を引て純集りしぞ。牧き李応賈氏夫人を陷車小載せ。徳の軍を三隊小分。凱哥を

を撥り出に梁山泊へ引回に。宋江ハ此消息を聞て大小悦び。自ら山を下てお迎へ。遂に忠義堂に至て。各坐位列に。別に宋江先盧俊義小對して云。我等為て盧員外を山陣小迎めをせ。共に大義小聚んと欲し。却て大路を員外に後しめ。未朝夕是を患として。ずんを悩しる。如に今日再び是を聚て觀ることなるの幸ひこれ小勝ん。那〻い員外我等が大罪を免し。盧俊義これを謝して云。上ハ宋君の虎威小托し。下ハ張豪傑の勇力に依て。脫れ出元一命を拾ひ。今日再び山陣に上りして。此恩天地とおなじ。何を以てこれを報んやと。感激に勝ざり。扨又蔡福、蔡慶ハ恭しく宋江に拜し。心を似け繪を吐て。陸地に。此時宋江自ら下て。山陣の外迄盧員外小讓られば。盧俊義大に謙遜して。素ハ何ホの志なれを。敢て山陣の

もゝ
をゝんや。宋君の帳下一軍を率ひ、義兵を以て大馬の勞を
施し、御敕命の恩を報ずべし。列莫大の福なり。宋君何か疑慮
の言を以て来を若わすやと。再三勧めてこれを辞しこれば宋江云
盧公の德推ものを敬はざるんや。必ず辞し申さるれとて拝して
第一位の座を傳へしかども。盧俊義変して是非後ひ。
風李逵大笑して云。宋君為山陳のを他人に傳の者。
我ふ逮斧を以て立所不一座を開さんといまざ云も後へざるふ者
武松も同く云。宋君に顧位を傳へ申すべ。怒しく云
以外のふ合ひしして美事出来へんも測ケト宋江これを安さ大ふ
怒り汝人何ぞ喚して雲孔の言をといふや。再び多云することなれ
と大はこれを辞りる。盧俊義又宋江ふ對して云宋君為邪ゝ
とくんぞ我公を忘れ窃んドぞし。伏して孤くに武論を休め人とて疏て牢く
辞しる外に李逵又呼て云あ公を益のことに云徒を費しなんより。
宋君ハ皇帝をなし。盧公ハ宰相をなし。我等ハ皆大官をなし。生
涯を楽んふ。軍を起して赤糸を攻め人と。躍起て云られば。宋
江武云を吹て勿ち怒絶して新良を変ず大小李逵を罵られば。
呉用再ひ宋江を諫て云。宋君先ん怒りを休め。今者に盧員外を
歌まゝ。後日を功に依て再び座位のことを儀論あべしと。諸統の徒
をもりまくられを変ゝられば宋江を攻め人ハ皆歌をる。武松
薛永ハ已に冥府が眷族を云て山陳に回りる。翌日宋江ハ多く陽
を以て。軍歩軍水軍一人も遺さず恩賞を行ひる。盧俊義を彼
淫婦奸夫あ人の族を今日殺害すべきうと宋江ふ告られば。宋江

歩笑て云我獄に先と去れぬ。おく拖出せと左右に命じ引る。軍卒共
既く女人を引出し。李固と左りの方の柱に縛る。賈氏と右の方の柱
に縛附け。宋江盧俊義并に弦既を捕て一堂に坐す。宋江云山妻
人が罪恐へ。元来官に及ばず。唯盧員外の仇のまに〳〵ひ申と云られば。
盧俊義自ら刀を提て太義堂とより大に罵て云汝女人不義をなし。
剣へ我を害せんと科り。却て今我に報て女
人の敗を刎ふり。盧俊義再び堂上に坐り弦既に謝し。庶幾は
びを償ぬ。扨又梁中書に梁山泊の去已に引取ぬと告し。再び李成等
遊とせん。紋軍を收め遂に城中に入。都内眷屬紋て殺されん。各
源く哭きる。梁中書作りふこんをうつ〳〵ろを〳〵隣國に逃て去
と告て人るを信。各泊を暮退みし〳〵。梁山泊の人るいに遠く逃去る。

官軍共先に退去べ〳〵と云を改め引回し。これに又梁中書が
丈人に変ひに後軍の内に隠れ一命を脱れ。紋梁中書をして表を京
に奏せ〳〵め。代後梁山泊の賊と戦ひ。親方に対れる志ある子弟人。中傷ハ
其数を知ず。と云へ〳〵。蔡太師先これを聞て大に怒り。翌日文交の一
天に。弦の文武百官を張め。紋蔡太師を首として帝に表を奏り。小京
の軍の次第逐一詳に奏し〳〵る。帝大に驚せ給ひ。百官と議し〳〵
曰ひろへ。梁山泊の賊屬大罪を犯し。言行道理の事〳〵何等の什を
用ひて先を平ぐんやとそ。龍顔患し〳〵く見え給ふ時に諫議大夫趙
鼎。列を出て奏し〳〵る。向小大刀宋揚小云を与へて。兵向し〳〵紋小戦小頃
賊小法捉〳〵れぬ。事の為呼延灼。兵に韓滸彭玘ホも捕を取ず。故小
せ〳〵も。蓋地の利を失ふる孔〳〵ん。民衆を以てこれを思ふに。其勢

書を下し賜て。彼らを赦免あらば。紀良たとなして。辺境の害を防じめあらば。那て是上計なるべんと。未だ云も早らざるに蔡系氏云を聴て大ふいなり。汝已に孫徽大夫にして。いかんぞ朝廷の憲法綱紀を滅せんやなるや。彼徽ホハ初て万死に尚々の朝歌これを赦免あるべ。改天下に行れんと奏しるに帝叡聞あるて紀氏奏に曰ひ。趙鼎が官爵を元上あひて。再び入朝すべきにと。勅命已に。趙鼎晴ホ歎息して退朝に。帝又蔡系に問て宣ひるに。氏徽已に朝歌これば。急ざこれを付もんバあるべきに。にんべに非と密して征伐せしめば可きんや。蔡太師奏して云。良是と思ふに彼ごとき滅ぼいまず大軍を動ふ是也。淩州に表人の勇猛あり。一人姓ハ單名ハ廷珪。又一人姓ハ魏名ハ定國とや。紀淩州の固守せん。伏して。孤くハ陛下氏表人を召て一旗の軍馬を与へ給ひ。近日梁山泊ホ密し。徽らを征伐あしめ給ひ。必定水泊を掃清ホ迷捷軍の表を献ずべし。帝大ホ悦感の。勅書を作ふべきに。掘密院ホ命じ給ひ。殿中に入せ給ひ。百官ホ退散し。各心中ホ笑ひぬ。翌日蔡系勅使を撰で淩州へ密しり。扨又梁山泊の豪傑ハ初て忠義堂に会聚して。呂宋先宋江ホ對して云るハ。氏徽ホ系城を攻彼り多くの軍民を殺して。梁中書みどり表を系に献じて奏せざるん。付更尚朝の太師蔡系ハ梁中書の丈人なれバ必ず軍を起して尚陳を攻ざるべし。宋江云軍師の云拙て手柄あり。先人を小系に弛て車の実音を探索しめ。手後望く俗へて安軍を防バ可きんや。呂用ホ笑て云系已に人を弛て旬日を過しぬ。定めて今明々中ハ。梁山すべしと待りる

処ふ。果して氏日彼探事人を遣り。小京の梁中書表を天子に献じ。
奏聞を遂しゝ。孫儀大夫趙鼎宋江を御殺免めしゝ可るゝと奏し
る。藥京大ふ怒り。趙鼎が支爵を削り。今凌州の猛將單廷珪魏定
國ふ軍るを仕せしめ。近く山陳ふ来るを風聞なるよゝと報
れば宋江同て云。已ふかくのごくんぞいる計を見ふ尚しんや。呉
用答て云宋君ふも見を憂へなふと勿れ。彼我が山陳ふ来るふ
遊見をも活捉べしゝ。いまゞ云も終ゝぶる。冥猪を。梁山陳ふ上て
より以来。宋君の法恩を蒙るとい。いまゞ一分の力をも費さゞ。安ひ
氏田に来めへて純向よべし。彼單廷珪魏定國ハ来ることを知れり。抑
かの單廷珪ハ能水を利て。云と淋すの法を暁しぬるふり。人皆聖水將
軍と称す。又魏定國ハゝ火を利て。云を撃の法を暁しぬるふり。人皆て

紳火將軍と称す。来む不文不智と以ふ。那くハあ子の軍を使て
いまゞ彼ゝぶゝる先ふ凌州ふ推来ふく敵の動静を窺ひ彼義親
方に降来致さゞ誘引して山陳ふ問見べし。義又降来致さずんば活捉
て宋君ふ献ずべし。全く法敗の力を利ふふ乃ぶまゞ。宋君いゞ見を
弥いゝぬんや。宋江氏云を安く斜るゝに脱び。列宣賛郝思文為人
を副將として冥猪ふ従ハしめ。あ子の精云を擇んでこれを与へられば聖旨
冥猪云を引て山を下りる。宋江ハ皆金沙灘を送り。先ふ別れ冥
猪ハ宣郝。為氏とともに凌州へ至る。扨兵利ハ宋江ふ對していろく
冥猪氏の出陳いまゞ来んを保ず。して忠義深ゝやめんを再び良ゝ
と。救援をなさしめハ。ゝ〳〵ん〳〵て。林冲楊志を大ゝとして孫立黄
信を副ゝとし。総て五子の人るを与へ凌州乃へ来る。彼ハ来旋風

李逵を召て云るゝ。系も云を仮て奉向後さん。宋君これを伴し曰へ。宋江ゝ云ふ代ハ汝を刎ひゞ已に良ひ者ゝ歩立しうゞ空て大功を建べし。亦彼汝を惜しゝ何の益ゝあらん。李逵大小焦燥ゝ云。我若乍服ゝ生時ハ必ず病を仮て宋君ゝ云を信ぬハずんバ我一人山を下て張明べし。宋江是を聞て急ぎ責り。汝ゝ我軍令を刎ひずんバ先汝が頭を刎べしと勵し罵られバ。李逵ハ只驚ゝ〳〵て忠義堂を下り山路を歩出ぬ。翌日一人の云忠義堂の前に来り。昨夜二更の時分黒旋風李逵斧個の斧を提て。山陣を忍び出て更に外向知れずと告られバ。宋江代云て大小驚ゝ。我昨夜彼を責り居る由ゝ。彼必定それを憤り他所へ投る ハ遠ゝ我の早めんと知バ。責るまじきものとして。再ゝこれを後悔ず。

呉用ゝ云宋君ひんぞ彼がんと知りなれや。彼を系ぎ性静かしゝと又ゝ。却て義氣重しゝ二三日の内に再び明ゝ宋君先ゝ宿んず。宋江ゝ云ふ。彼ゝ系ぎ性強く義氣重しゝ宋江ゝ恭ゝ敬ゝ。後又時迄。李雲樂和王定六ゝ人と共に彼ゝ系ぎ性ハ不分明しゝ共に彼ゝ。黒旋風ハ斧個の斧を提て山路を跳り。小路を出て濠州へと走り行。李逵ゝ中小路乃彼皮軍ゝ対ん。何ぞ必しも彼者の人るゝ刎んや。我城中に泡へ。一ゝ織皮を斬殺し。宋公明に抗ぞ。而後彼朋友ゝ一點の雪恥を爭ん。と云て。彼ゝ飢渇に逼て人家ゝ入り。めゝと表を伺ひ。果して一軒の酒屋ゝ見れバ。李逵刎走り入り多く酒肉を求めゝ。是を刎ひ。已に身を奮て跳出ん。と云て。酒保保樣住めて酒肉を求めゝ。李逵ゝ云我先途中小出て空しゝ商賣を為。

黒旋風一撃ゟ
韓伯龍を殺す

又問うさん酒殘を儲ふべし。暫く先賜らしめよと。又まう出んとせし時一人の大漢子外面より走入て。大ひに呼り汝は何ものぞ大膽に酒を飲で殘を儲ずるや。李逵眼を睜て云。我を是何方人とか殘を儲ずるや。李逵眼を睜て云。我を是何方人とか飽まで酒食を喰ひ。酒も已盡てこれを作せ。忽ち殘を求めて個と坐るを見て。彼大漢子罵て云。汝は定めて乃中の俳徊する小賊ならん。我は居の中を來て後て。汝に呼せん。無禮なる宋公明の罪うしめみるの中。我は是梁山泊の豪傑韓伯龍と云人なり。汝等我を欺バ一刀を加て殺べし。李逵は云て心中に冷笑ひ。漢子必定我山寨の威風を假て。強盜をなすを疑ひなし。我幸ひ今是を除んと。忽ち計を設け出一つの斧を投出して云るは。我酒殘を儲ふまで。斧を執て質とせん。汝らんや。韓伯龍計を知べしと。別是

を作して。斧を舒て斧をとらんとせし。李逵是に斧を奉て。韓伯龍が眉目ふ歩蒐し。嚬むべし。韓伯龍を今日是に李逵ふ死ふ。李逵は是に居を出て淺州へと急ぎ行れに。又後の後ろ一人の大漢子走り來。李逵が面を歩居で疎漏のうべけ。李逵別ち問て云。何奴ぞ。一向我を知るや。彼漢子答て云。我汝を何の姓名ぞ。李逵これを聞て大ひに驚て。彼漢子に向て蒐る。彼漢子ふ。しも強ひして。右の拳を揮拳。却て李逵が肩骨を痛く歩るれば。李逵忽ち發怒して。彼漢子いんでかくのごとく。疎勇なるや。是狂則の者なるか。先彼が姓名を問んとて。李逵再び呼を宮ろ。汝が姓名はいか。彼漢子歩笑て云。我は元來姓名もなし。汝益のことを問んとて。逸ふ來て我と雌雄を決せよ。李逵は云て大ひに驚

拳を振げ足を飛せて歩入る処に。彼漢子又李逵が小腹を蹴
られし。李逵も負ぬいうるを老るれば力強雷なるや。我
変して汝に贏がしこそ。遂に立ち行んとしうるに。彼漢子又李逵
と呼同して云。先汝が姓名を我小報よ。後又我姓名を汝小逢せ。
李逵が云。我は梁山泊の張飛黒旋風李逵と云ふ。彼漢子云て
曰て汝已に梁山泊の豪傑なるべ。稀ふも云を引て無ごとなるに。
況や今云乳時前に一人何ぞ一人何ぞ逆しや。李逵が云。我は宋朝の
彼單廷珪魏定國の為人と結て大功を張さんと欲し。今已に此処小
なれり。彼漢子が云。梁山泊ちは先ず軍を出るを渦梁山泊の
李逵小偽うくんば。向小来向せ。大将の姓名も知つくんぬ。ふ〜云れて
告知せ。李逵が云。先小来る大将は大刀関羽の後裔なり。

豹子頭林冲。青面獸楊志小。彼漢子云て曰て忽ち李逵に向て牧
て云。李逵又問て云。汝くは何ぞ泊が姓名を問ん。彼漢子が云。我
は中山府の云。して先祖より代々に撲を伝へ子〜孫〜に教るまで。
云て業。云。今李云を歩〜拳法も。先祖より伝へし知の秘密
のまこと系が姓は焦名は挺と号し。綽名は没面目と。山東河南の
地に隠れなし。皆承て寇州枯樹山小一人の豪傑山孫と列ら猛威
を遠近小振て。もし好で人を殺て方世拳を喪門神鮑旭と称て我
今彼山小上て鮑旭小逢せん。と歌し。悲て代処て李云小云。
ゆて我小背躍の亟に。李逵が云。是下かくのごとき武勇を保ち何ぞ我
梁山泊の宋公明小逢ざるや。焦挺が云。我久〜宋張飛を慕ふと
以て来ざ。抵機めて〜。後小来る。今日李云に遇ふは天を後を

揚るりめ之李公りいよく来と弁ぶんべ。梁山泊に上るべし。李逵が云我此賀兵独山陳と歩出しをへ。宋公明に表られるふり。何卒單魏。函將と取て和と清んと欲するが如き。豈絶るを宋して四らんや。渦り黒して梁山泊に上んとすべ。先我と引て枯樹山ふ彷彼鮑旭と称て。共に濱州に馳。單魏。函ねと対れて大功と建而して後梁山泊ふ回るべし。焦挺が云濱州一府ふ作る軍るあ。我密ゝ山中に忍びへ。ゝゝも。本見と遂んと欲ば。しして。宋ゝ一命と考へべ。先枯樹山ふ馳と鮑旭と誘引し。共に梁山泊ふ上て其後此事と図しべ所をんやと。函人評議して立る処に。時迁が鮑旭に跑来て喝云るハ。李公何方山陳と忍び出ひて。彩法人と患ハしめるや。宋張紙已に人と以濱ふ馳て李公と尋しめる。先

一刻も急に山陳に回り。此時李逵焦挺と待て時迁に遇しめ始後のと具さに喝りる。時迁又李逵と称て云ゝ山陳に飯りひて。宋江の仏と安んぜしめ。と兵顧偲しる処に。李逵答て云我今焦挺と濱定して。先枯樹山ふ馳かの鮑旭と引て山陳に飯んと欲し。汝も後に我ふ随て来べ。時迁が云是大小不可之。宋江仏も待びて苦とのふ。汗時もまく飯り。此李逵が云沙弱我ふ随て来べ。先達て山陳ふ喝り。此我を後ろ彩て回るべしと。急と変しを云るんば。時迁ハ宋李逵が急性なると拘れしを。再び称云と加る。及び遂に別れ先山陳に飯りる。李逵は又焦挺と共に枯樹山と馳て。宋江仏。

宋待單魏。函れと飯濱せしむる事。李逵鮑旭が勇ふ沢巻ふ詳之